

with YOU

ウィズ・ユー

平成26年11月

Vol.26
発行/熊本市教育委員会

スマホの使い方を中学生議員が議論!

平成26年8月8日、「熊本市中学生による子ども議会」を開催しました。これは、熊本市にある52の中学校から生徒が1人ずつ参加し、市長等と議論を行うものです。今年は、スマートフォンの使い方などについて議論されました。



議員（生徒）が質問する様子



質問を作成する様子

第18回 熊本市中学生による子ども議会の概要

今年は、スマートフォンの使い方、児童虐待防止のオレンジリボン運動の周知、熊本市イメージキャラクター「ひごまる」の活用等について、中学生が質問や提案を行いました。

特に、スマートフォンの使い方については、「学校でルールをつくるよう働きかけていくので、保護者に伝わるよう協力してほしい」と提案し、教育長は、「教育委員会も各学校のルールづくりを支援し、各学校のルールが保護者に伝わるよう働きかけていく」と答弁するなど、協力して取り組むことを確認しました。

生徒には、子ども議会で学んだことを学校生活に活かすとともに、市政に対する関心を高めるきっかけにして欲しいと思います。

<問い合わせ先> 人権教育指導室 TEL 328-2752

Check! 教育委員会の広報誌・熊本市中学生による子ども議会は熊本市のホームページでも見るができます

熊本市ホームページ (<http://www.city.kumamoto.jp/>) >分類から探す>学び・観光・スポーツ>教育・学校・青少年・若者>教育・学校の情報

With You(ウィズ・ユー)についてのご意見・ご要望をお寄せ下さい。

編集・発行 〒860-8601 熊本市中央区手取本町1-1 熊本市教育委員会教育政策課

TEL 096-328-2703 FAX 096-359-6951 e-mail:kyouikuseisaku@city.kumamoto.lg.jp

●子どもたちのルール作りを支援します～スマートフォンの利用について～

スマートフォンや携帯電話は子どもたちにも広く普及し、便利な反面、誤った使い方をして個人情報が出しつたり、いじめなどのトラブルや様々な犯罪に巻き込まれたりする危険性があります。また、長時間利用することで生活習慣が乱れ、依存傾向に陥り、健康に悪い影響が出る恐れもあります。

スマートフォンなどを安全に利用するためには、その使い方について学校や家庭で話し合い、ルールを作り、守っていくことが大切です。

中学生による子ども議会では、生徒たちから「スマートフォンの危険性や学校で決めたルールが保護者に伝わるよう協力して欲しい」という提案がありました。

今後、各学校でルール作りに取り組んでいきますので、家庭でもそのルールを把握し、子どもと話し合っ、適切な利用に努めましょう。



江南中学校の生徒たちが作りました ～江南ルール～

江南中学校では、生徒たちが、健康や友情、プライバシーを守るために話し合いを重ね、スマートフォンなどの利用に関するルール「江南ルール」を作りました。

その結果、生徒のアンケート調査によると、夜間の使用や中傷的な書き込みの防止などに一定の効果がみられました。

江南中学校の生徒たちが作った「江南ルール」

ルール1 健康を守ろう

- ① 10時以降は情報通信をしない
- ② 寝るときは極力電源を切って返信や投稿をしない

ルール2 友情を守ろう

- ① 見た人が傷ついたり不愉快に感じたりする言葉は使わない
- ② 悪意のあるグループを作らない・入らない
- ③ 相手の身になって考える

ルール3 プライバシーを守ろう

- ① 個人情報をネットに載せない（画像・氏名など）
- ② 誰にでも見せられる情報・言葉しか書き込まない
- ③ 知らない人からの書き込みは無視する

●家庭でもスマホの利用について話し合しましょう

子どもがスマートフォンなどを欲しいと言った時が、学校や家庭におけるルール作りの第一歩「話し合い」のチャンスです。お互いに納得するまで話し合しましょう。

なぜ欲しいのかを
子どもに十分説明
させましょう

親としての心配を
子どもに伝えましょう

大人に相談することの
大切さを伝えましょう

・子どもに伝えたい6つのルール

- 1 ネットで知り合った人と会わない
- 2 個人情報をネットに書き込まない
- 3 不適切な発言や画像をネットに掲載しない



- 4 経費がかかる内容は必ず相談する
- 5 使用する時間と場所を決める
- 6 フィルタリングの設定を行う



●学校に相談してください～子どもの悩みや不安について～

各学校では、子どもや保護者から学校生活や家庭に関する相談を受け付け、課題の解決に向けて取り組んでいます。

○相談内容の例

- ・友達との関係など対人関係の相談
- ・いじめや不登校など学校生活の相談
- ・家族や家庭の問題の相談
- など

○相談方法・連絡先

- ・まずは在籍する学校へご連絡ください（担任、教頭など）。
- ・子どもの悩みや不安など、相談内容に応じて、心のサポート相談員やSCへの相談、SSWの派遣要請など、解決に向けた方策を一緒に考えます。

・スクールカウンセラー（SC）

SCは、臨床心理士などの心理の専門家、専門的なカウンセリングの知識・技能を活かして、子どもや保護者の相談に応じます。

熊本市では、中学校21校を拠点としてSCを配置し、全ての市立中学校と、拠点とする中学校区にある小学校49校に対応できる体制を整えています。

・スクールソーシャルワーカー（SSW）

SSWは、社会福祉士などの福祉の専門家で、子どもの様々な課題に対して、学校をはじめ、各区の保健子ども課などの関係機関と連携して、学校や家庭等を訪問し、教育相談等を行います。

熊本市では、現在、6人のSSWが活動しています。

・心のサポート相談員

学校教育に見識のある相談員が、子どもや保護者の話し相手・相談相手になり、悩みやストレスの解消を図ります。

熊本市では、現在、60人の心のサポート相談員が、熊本市立小中学校の約半数にあたる、小学校46校、中学校21校で活動しています。

・ユア・フレンド

熊本大学教育学部から推薦された学生が、1週間に1回程度、不登校の子ども家庭や学校を訪問して、話し相手や遊び相手になります（活動時間は1回2時間程度）。

熊本市では、現在、191人の学生が登録し、活動しています。

<問い合わせ先>教育相談室 TEL 362-7070

●市立図書館の休館に伴い、臨時カウンターを開設しています。

熊本市立図書館は、平成26年9月1日から平成27年2月28日まで、空調機等設備改修工事による休館のため、隣接する大江公民館内に臨時カウンターを開設しています（11月下旬からは市立図書館の正面玄関に移設予定）。

臨時カウンターでは、予約本の貸出しや返却業務などを行っています（開館時間9：30～18：00）。



	サービス項目
1	予約本の受付・貸出
2	返却
3	図書館カード新規登録

<問い合わせ先>市立図書館 TEL 363-4522

●わが家のルールをつくってみませんか

～家庭で取り組む く・ま・も・と～

子どもたちが豊かな心で健やかに成長していくためには、学校・家庭・地域が連携して、心の教育を進めていくことが重要です。熊本市では心の教育を推進するために、「家庭で取り組む く・ま・も・と」として、家庭における生活習慣やルールづくりの参考となる取り組みの例をまとめてみました。

ぜひ、子どもと一緒に話し合い、わが家のルールをつくってみませんか？



りかえし伝えよう 命の大切さ

- わが子のよさや友達のよさを伝えましょう
- いじめはぜったいにゆるされないことを確認しましょう
- 命の大切さについて考えましょう



ま もろうルール マナーや社会のルールの大切さ

- パソコンや携帯電話の正しい使い方について確認しましょう
- みんなで使うものを大切にすることを育てましょう
- やっていいこと・やってはいけないことを一緒に考えましょう



りもり食べよう すこやかな体づくり

- すききらいなく、何でも食べましょう
- 運動や自然とふれあう活動を増やしましょう
- 規則正しい生活をしましょう（起きる時刻、寝る時刻、テレビやゲームは時間を決めて）



もに語ろう 家族・地域社会とのふれあい

- 家でのお手伝いを決めましょう
- 学校での出来事や悩みを聞くなどしてコミュニケーションを深めましょう
- 地域行事・ボランティア活動に進んで参加しましょう

わが家のルール（子どもと一緒に話し合い、わが家のルールを書いてみましょう）

●英語力の向上に取り組んでいます

現在、英語教育は大きな転換期を迎えています。国は、グローバルに活躍する人材の育成に向けて、小学校の早期から英語教育を推進するなど、小学校から高等学校を通じた英語教育のレベルアップを図っています。

熊本市でも、英語の授業等でコミュニケーション能力を養うだけでなく、外国への興味・関心や理解を高める取り組みを推進しているところです。

その一環として、今年8月、金峰山少年自然の家において、71人の中学生、ALTと英語教員が参加し、2泊3日のイングリッシュキャンプを開催しました。応募者が多く抽選となりましたが、参加した生徒にとって、英語のみで生活したことは、とても良い経験になりました。

○イングリッシュキャンプに参加した生徒の感想

- ・ALTと話し、英語が通じたことがとても嬉しかった。もっと英語を勉強して、話せるようになりたい。
- ・家で英語を使い、その楽しさを妹や家族に知ってもらいたい。また、英語でコミュニケーションがとれるようになりたい。
- ・外国の方に道を教えてあげたい。また、東京オリンピックでもこの経験を活かしたい。



イングリッシュキャンプの参加者とALT

<問い合わせ先> 指導課 TEL 328-2721

●一部の小学校の給食調理業務を民間に委託します

熊本市の学校給食調理業務については、既に14ヶ所の共同調理場（中学校34校、小学校1校に配送）において民間委託を行っているところですが、平成27年度から、調理食数が550食以上で栄養教諭等が配置されている小学校の給食室についても、順次委託していくことになりました。



これらの学校の中から各区のバランス等を考慮して選定し、平成27年度は次の9校を委託します。

帯山小学校、出水南小学校、託麻東小学校、託麻南小学校、長嶺小学校、白坪小学校、御幸小学校、清水小学校、高平台小学校

なぜ民間に委託するの？

熊本市では、「民間でできるものは民間で」の考えのもと、限られた人員・財源を有効に活用するため、様々な業務の見直しを行っています。学校給食の調理業務においても、民間のノウハウや専門性・柔軟性を取り入れ、安定的に給食を提供していくために委託を行うものです。

委託する学校の給食や食育はどうなるの？

学校での食育については、これまでと同様、担任や栄養教諭・学校栄養職員が中心となり、学校全体で取り組んでいきます。給食の受け取りや食器返却の際などには、調理員と子どもたちとのふれあいも引き続き行っていく予定です。

全ての給食業務を委託するの？

委託するのは調理・洗浄作業のみです。
献立作成や食材の購入は、これまでと同様、教育委員会、学校給食会及び学校が責任を持って行います。
なお、給食は共同調理場からの配送ではなく、栄養教諭・学校栄養職員が作成した指示書に従い、これまでと同様、学校の給食室で調理します。



食物アレルギー対応はどうなるの？

食物アレルギーについては、保護者、学校及び委託業者との話し合いで、どのような対応ができるかを決定します。委託後も基本的にこれまでどおり行っていきます。

給食費はどうなるの？



保護者からいただいている給食費は全て食材の購入にあてています。
食材の購入方法はこれまでと変わらないことから、委託による給食費の額の変更はありません。

<問い合わせ先> 健康教育課 TEL 328-2728

『特色ある学校の取り組み』の紹介

熊本市立小中学校では、日頃から特色ある学校づくりに向けて、様々な教育活動に取り組んでいます。このコーナーでは、毎回、各テーマに沿って、各学校が実施している「特色ある取り組み」を紹介していきます。各校の先生と子どもたちの生き生きとした姿をどうぞ見守り、ご支援をよろしくお願いいたします。

『緑化活動』～全日本学校関係緑化コンクール文部科学大臣賞を受賞！～〔帯山中学校(中央区)〕

Q:問題

帯山中学校に飾ってある花のプランターは、最盛期には何個あるでしょうか？

- ① 約 50 個 ② 約 100 個 ③ 約 400 個 ④ 約 800 個

全日本学校関係緑化コンクールは、公益社団法人国土緑化推進機構が、次世代を担う青少年の緑化活動と学校における緑化教育の一層の推進を図るため、学校環境緑化の取り組みを表彰するものです。各都道府県から推薦された小学校、中学校等の優秀校について審査の結果、平成25年度、学校環境緑化の部において、帯山中学校は特選の文部科学大臣賞を受賞しました。これは、平成23年度に続き2回目の日本一となります。

帯山中学校は「人が環境をつくり、環境が人を育てる」をテーマとして、学校環境緑化に全校生徒で取り組んでいます。平成22年度から毎年、「種苗1万本大作戦」と銘打ち、パンジー、ビオラ、サクラソウを種から育て、校地内外の花壇やフェンスのプランターに植えて飾り、地域の皆様や通行される方々にも楽しんでいただいています。

今回の受賞は、生徒による日頃の花壇整備及び清掃活動、保護者及び地域の方々による種植えボランティア活動、青少年健全育成連絡協議会と連携して地域を花いっぱいにする「さわやか推進事業」等の成果です。

帯山中学校では、学校・家庭・地域が連携しながら、今後も生徒が土に触れ命をつなぐ緑化体験活動等を通して、「心身ともに健康で、豊かな人間性と自分をあきらめず努力する活力ある生徒の育成」に努めていきます。

答えは、4番の「約800個」です。



緑化委員会主催の早朝緑化活動



学校支援ボランティアによる種植え



毎日、水かけに励む緑化委員



熊本市教育委員会委員

田口 伸子

「学びは孤独な作業」

教育委員のひろば

子どもも頃、「これをしなさい」と指示だけされても、すぐに素直に従うことがなかなか出来ないタイプの子もいました。私には「なぜ？今じゃなければならぬ訳は？」を納得するという過程が必要だったのだと思います。その理由は「～さんが喜ぶから」でも、「家族のきまり」でも、納得できれば、脳内の反抗勢力が弱まり、体が動きました。実は、多くの子どもたちも私のように感じているようです。全体の見通しを示されて初めて、大人も子どもも自主性が起動するようです。基本的に子どもは学びは、教育と学びの獲得（学習）が車の両輪とならなければ上手くいきません。どんなに教えても学びは子どももいます。ちょうど私の子ども頃のように「ここを読んだらわかるでしょ」と何度言われても、自主性がONしない。それは、勉強するという作業は孤独な内面的作業なので、一人でいる時の自分との関係が居心地のいいものでなければ、勉強という孤独な作業はできないのだと思います。自主性は孤独の中で発達します。自分を知ることから始まるようです。心の中のもう一人の自分と対話をしつつ、一人作業に集中できる時間を過ごせる子どもたちを育てること、それが教育の核心ではないかと思えます。福岡の助産師で食育の講演活動をされておられる内田美智子先生の言葉がそのことを示唆しているようです。「自己判断がきちんとできる子どもたちは、一人でごはんを食べる時も『いただきます』が言える。時間をかけてそう言えるようにしつつけた親の存在があるから。(要約)」

◆このコーナーでは、毎回、教育委員の教育に関する思いや抱負を紹介します。